

新たな学習指導要領の下新設された「総合的な学習の時間」の推進に、中学生による「夢議会」を立ち上げた平鹿町。これまでの「夢議会」での提案を、百万円の夢事業として実現し、生徒達にふるさとを想う心を育み、未来を担う子ども達の教育に生かされています。

総合学習の一環「夢議会」が生んだ「夢事業」(平鹿町)

総合的な学習の時間新設
特色ある教育活動の推進

かつて、これまでの教科の枠を超えた学習などができる「総合的な学習の時間」(以降総合学習)が新設され、各地域や学校において特色ある教育活動が行われております。

総合学習への取り組みを
「夢議会」開催へ繋げる

平成12年、「総合的な学習」の試行年度にあたるこの年、平鹿町の平鹿中学校では、この学習時間の全体のテーマを「平鹿町に生きる～あなたはプロデューサー～」として、ふるさとである平鹿町の現状や将来構想などについて、生徒がグループに分かれ、それぞれにテーマを持って調査・研究活動に取り組みました。ほとんどのグループが町の財政状況や観光・福祉・産業などの行政関連のテーマを題材とし、町役場の関係課や施設などに赴いて「総合的な学習」の課題解決に向け、熱心に学



町長の答弁を聞く生徒達のまなざしは真剣そのもの



中学校体育館に特設された「夢議会」の様子

習に取り組みました。

中には、町の議会制度や行政システムを理解するため町議会の傍聴に訪れたグループもあつたほどもです。

この頃町でも、平鹿中学校生徒による模擬議会「子ども議会」の開催について模索していた時期でもあり、そこで生徒達の学習をおおして調査・研究した結果や疑問に感じたことなど、「子ども議会」を開催することにより、「提案・質問」に繋げることができればと、学校関係者や町議会、教育委員会などの関係機関に働きかけたところ、善は急げで次年度の開催予定を前倒しして、さらに「子ども議会」

会」を「夢議会」と改め、中学生による第1回の「夢議会」が開催されました。

1年間の調査研究成果を一般質問として意見提言

同町ではそれ以来、「総合学習」の一環として、毎年1回「夢議会」を開催してま

す。「夢議会」は、生徒側の代表者が議長を務め、議員として20数名が選ばれます。町執行部側からは町長をはじめとする二役に教育長、教育委員長や町各課長などが出席して町議会の本番さながらで行われます。

はじめに、町長から昨年の一般質問から出された意見や提言などについて、この1年間の行政報告がなされ、続いて生徒達から1年をおおして「総合学習」の時間を活用して、調査研究を重ねてきたテーマごとに一般質問として、意見や提言がなされます。

平成12・13年度には議場の雰囲気体験してもらったため、町の議場で開催していましたが、代表する生徒しか議場に入ることができなく、14年度からは全校生徒に「夢議

会」を体験してもらったため、平鹿中学校体育館で開催しています。

「夢議会」が生んだ「百万円の夢事業」

「夢議会」ではこれまで様々な質問や提案が生徒から出されてきました。その中には町政に即活かせるような鋭い提案もあり、町では「提案止まりで終わるのではなく実際に事業を実施してもらおう」と、この6月定例議会で平鹿中に対して百万円を計上しました。

この事業の導入にあたっては、「もし、百万円があつたらあなたは地域に」「町に」「学校に」・・・何をしたいですか。と生徒に問いかけ、生徒が自分の「総合学習」のテーマと関連した「夢」を夏休みの課題として全校生徒から百万円の使い道を募集しました。

「町民参加の映画を作りたい」「町に生息する絶滅危惧種ハリザツノ(イバラトミヨ)を保護したい」「教室にエアコンを設置してほしい」「野球場に屋内練習場を作ってほしい」など、町おこしに関す

るイベントから公共施設の整備など56件の「夢事業」が寄せられました。

その中から生徒会では、時間や費用を勘案して、台風の襲来により倒木・風化等の被害があつた中学校の憩いの場である風の小径を整備する。真夏に中学相撲東北大会が行われた際、町営相撲場の周りに木陰がなく猛暑で大変だったことから、木陰ができるように樹木を植える。という内容の事業を決定しました。そして、生徒会執行部7名が校舎裏の敷地にヤマボウシの苗木を植えたほか、相撲場にモクレンなどを植樹しました。

ふるさとを見つめ、想つ心を育む「夢会議」「夢事業」

今年で5回目となる「夢議会」(11月20日開催)では、生徒会長が議会の冒頭「百万円の夢事業」の実施状況を報告し、町に対して感謝の言葉を述べました。

その後、町長による行政報告に続いての一般質問では、市町村合併に係る町の財政状況や観光、福祉、産業、安全対策に至まで広範囲に及び、

この一年間の調査・研究の集大成として、町の現状を踏まえ、将来を見据えた質問や提言が出されました。

平鹿町も市町村合併に向けた取り組みが粛々と進められています。そんな激動する情勢を生徒も一住民として肌で感じ取っていることがうかがえた議会でありました。

「夢議会」が生んだ「夢事業」は生徒達の目線に立った取り組みであり、言い換えれば住民の視点で行政運営を考えることであります。これらの試みにより、子ども達にふるさと平鹿想つ心が育まれ、未来を担う子ども達の教育に生かされています。

校舎裏にヤマボウシ植樹する生徒会執行部のメンバー

